

市民オンブズマンが考える主権者教育

16/2/27 (土)「見張り番」学習会
名古屋市民オンブズマン 事務局 内田隆

1.なぜ今主権者教育か

2016年6月から18歳選挙権開始

高校生にも主権者教育が始まる

→教える大人は「主権者教育」受けていない。

市民オンブズマンは「主権者」の権利を最大限活用している。

※中学・高校生向けのプログラムは大人にも使えるのではないか。

▲市民オンブズマンメンバーの高齢化

2.名古屋市民オンブズマンに声がかかった経緯

名古屋の私立中学校が今年から「NGO・NPO体験学習」開始。

中学1・2年生が10人弱で名古屋の各NGO・NPOを訪問。

→別のNGOがオンブズマンを紹介。

高校生向け講座は経験があるが、中学生向けは初めて。

3.現在の「主権者教育」の問題点

1) これまでの主権者教育の系統

i) 総務省系（選挙管理委員会） 主な主張「選挙に行きましょう」

ii) 国税庁系 主な主張「きちんと納税しましょう」

iii) 内閣府系 おもな主張「生涯学習の一環」

iv) NGO系 シティズンシップ教育など

2) 今回、18歳選挙権開始にあたり、文部科学省と総務省が連携。

→公職選挙法について詳しく説明。

「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」（初等中等教育局長通知）Q&A（生徒指導関係者向け）【別紙1】

<http://nagoya.ombudsman.jp/data/160129.pdf>

→「選挙とデモだけ」か？

3) 教育委員会の問題点

・「教育に政治はタブー」意識

・「教育委員会勤務はエリート」社会科の先生はほとんどいない

→NGO・市民団体との連携は意識にある

教員内での自主学習 開始

・現場から「主権者教育か有権者教育か」

・現場の先生は主権者的活動をどこまで行っているか？

☆高校への政治活動届出制の動き【別紙2】

4.16/1/30 中学生向け講座

1) 中学1・2年生9人 2時間 レポート【別紙3】

目的：税金を納めている実感をしてもらう

納めた税金が有効に活用されているか、調べる方法を教える

2) 衝撃の事実 中学生は自分でお金を払わない

1か月の買い物でいくら消費税を払いましたか?→ほしいものは親が払う。

携帯電話・スマホ 全員が保有も、すべて親が払う。

※社会人でも源泉徴収されていれば税額は気にしないのではないか。

3) 税金は何に使われているか 身近なものから考えよう

・朝起きてからこの事務所に来るまで

・税金のある社会とない社会の絵【別紙4】

4) 政務活動費について

「号泣議員」の泣きまねが学校で流行る→経緯を調べてきてもらう

5) 感想

「難しかったけど勉強になった」

5.今後の課題

☆生徒が興味を持つ参加型ワークショップ形式ができないか。

1) なぜ他人の意見とすり合わせる必要があるか

「朝食のおかず」ワークショップ【別紙5】

『シチズン・リテラシー 社会をよりよくするために私たちにできること』

鈴木崇弘ほか編著 教育出版(株) 2005/4

2) どうせ投票しても変わらない?

「なぜAKB総選挙には投票して、選挙に投票しないのか」

「AKB総選挙と選挙の比較」ワークショップ【別紙6】

・「1票を投じてもどうせ変わらない」ならなぜAKBに投票するのか

・なぜ選挙に際して支持を公言しないのか

・なぜ握手をするのか

・選挙にはなぜAKB総選挙のような熱狂がないのか

☆どう学校の現場に伝えるか

・教育委員会に働き掛け

・主権者教育と接触